

山形県と秋田県に跨る「出羽富士」鳥海山は、独立峰としては東北で最も高く、標高は2,236メートル。出羽國一之宮 鳥海山大物忌神社（でわのくにいちのみや ちょうかいざんおおものみじんじゃ）の本社はその山頂に鎮座する。

本社のほか、麓の「口の宮」と呼ばれる里宮である遊佐町吹浦の「吹浦口の宮」と同町蕨岡の「蕨岡口の宮」を総称して、鳥海山大物忌神社と呼ばれる。ちなみに、一之宮とは、ある地域の中で最も社格の高いとされる神社のことで、鳥海山大物忌神社は、現在の山形県と秋田県にほぼ相当する出羽國の一之宮である。

2007年11月、国の文化審議会が「鳥海山大物忌神社境内」(山頂にある本社を中心とする5合目までの山岳部分と、「吹浦口の宮」と「丸池」、「蕨岡口の宮」などの区域、合わせて約917ヘクタール)を史跡に指定するよう文部科学大臣に答申し、国の史跡に指定されることになった。鳥海山は、古代から中・近世を通じて出羽國の中心的な信仰の対象として崇拝され、近世では、農業の神としてあがめられ、幅広い年代の宗教や信仰の実態を知る上で貴重と評価された。

山頂の御本殿は、伊勢神宮と同じく20年毎に建て替える式年造営の制になっている。現在の御本殿は1997年（平成9年）に造営された。造営に際して



鳥海山大物忌神社本社（鳥海山山頂）

は、伊勢神宮の式年遷宮の建て替えられたあとの古い建築材の一部を譲り受け、活用している。1997年（平成9年）の造営では、伊勢神宮外宮の御正宮の屋根の葺き板（幅一尺、厚さ二寸五分、長さ二十三尺）約20枚を頂き、当方から大型トレーラーを派遣し運搬してきた。この20年毎の造営は、標高2,000メートルを超える山頂に建物を建てるわけであるから、大変な作業である。平地において一旦社殿と覆屋を組み立て、社殿はそのまま台に乗せ枠を作り、天候を見計らいながらヘリコプターで吊って山頂まで空輸する。覆屋は一旦解体して部材ごとに同じく山頂ま

## バリューサイト VALUE SIGHT

# 遊佐町鳥海山一番地 出羽國一之宮 鳥海山大物忌神社の

国の史跡に指定されることとなった「鳥海山大物忌神社境内」。

山頂に鎮座する鳥海山大物忌神社本社の20年毎の造営や鳥海山の山小屋の管理、登山者のケア、例大祭などの祭事。そこには、四季を通じて様々な営みがある。

でヘリコプターで空輸し、山頂の広場で降ろして、そこから先は人力で担いで本社まで運び、釘を使わず積み木のように一夜のうちに再度組み立てる。

また、鳥海山は「日本百名山」の一つに数えられ、全国各地から多くの登山者がいらっしやる。鳥海山大物忌神社では、山頂本社にお参りする方々や一般の登山者のために参籠所（山小屋）を運営している。山頂本殿のほか、山頂の御室参籠所（150名）、御浜参籠所（50名）、河原宿参籠所（30名）の各小屋である。山小屋は毎年7月1日～9月第2週の日曜日までの夏山シーズンに営業しているが、この期間に使用する物資は膨大である。一夏で米は約1トン。そのほかに水、味噌、醤油、酒、ビール、その他の飲み物、燃料、日用品、食器類、毛布数百枚等々、合計で約40トン。

山小屋で使用・販売するこれらの物資は、すべてヘリコプターで空輸する。空輸は、毎年6月10日に決めている。大平山荘の駐車場を臨時ヘリポートにして、そこに物資を集結し、そこから山頂までだと約15分の空輸。ヘリコプター1機1回あたり約700キログラムの物資を吊って空輸するから、山頂、御浜、河原宿、合わせて延べ約60回のピストン空輸を天候が良ければ一日で行う。朝5時ごろに天候を判断し、OKとなれば朝8時ごろから空輸スタート。臨時ヘリポートでの積み込み、各山小屋での荷下ろしの手配など、大変なプロジェクトである。当然、

# 庄内

## 営み



出羽國一之宮  
鳥海山大物忌神社 宮司

伊藤 眞垣

シーズン終了の際は、余った物資等を同じ手順で山から降ろすこととなる。

2,000メートルを超える山であるから、登山者の中には登山道の途中や山頂でケガをしたり、体調を崩す方もいる。山小屋の開設期間中に、こうした方々から神社に連絡があった場合は、神社から遊佐町の町長さんに連絡し、救助のためのヘリコプターの出動を要請してもらう。昨シーズンも、ねんざをしたなどの理由で、ヘリコプターが出動したケースは何件もあった。ヘリコプターは、約15分程度で飛んで来るが、強風であったりすると上空でホバリングしたまま降りることができない場合もある。ヘリコプターが飛んで来ることができない状況で緊急を要するとすれば、山岳会の方々にお願いして、救助隊を組成し、山に登ってもらって救助することになる。

## 祭 事 暦

- |       |                                |        |
|-------|--------------------------------|--------|
| 1月1日  | 歳旦祭 御頭舞奉納                      |        |
| 5日    | 五日堂大祈祷 (五穀の占)                  |        |
| 4月8日  | 祈年祭 (吹浦宮の口)                    |        |
| 5月3日  | 蕨岡口の宮例大祭 蕨岡延年奉納                |        |
| 4日    | 吹浦口の宮例大祭                       | 吹浦田楽奉納 |
| 5日    | "                              |        |
| 7月1日  | 鳥海山夏山開祭 (吹浦宮の口)                |        |
| 14日   | 鳥海山火合せ神事<br>(山頂、御浜、西浜、飛島、宮海など) |        |
| 15日   | 月山神社祭 (玉酒神事)                   |        |
| 11月8日 | 新嘗祭 (吹浦宮の口)                    |        |
| 9日    | " ( " )                        |        |
| 12日   | 新嘗祭 (蕨岡宮の口)                    |        |

こうしたケアも、神社は行う。

なお、各山小屋への宿泊予約は、「吹浦口の宮」にある社務所で受け付けているので、お問い合わせ願いたい。

最近はいよいよ減ってしまったが、「鳥海講」という風習が現在も残っている。「鳥海講」は、農家の方々が五穀豊穡と農作物の虫除けを祈願するため、鳥海山山頂の本社にお参りすること、およびその組織のことである。筆者の父親の世代では、夏に鳥海山の麓から徒歩で山頂にお参りし、虫除けの御札「虫札」を頂いてきたものである。

庄内平野の農家の方々は、鳥海山の雪から生ずる伏流水があるから生活水や農業用水に困らないとか、鳥海山が山背（やませ・稲作に悪影響を与える東寄りの冷湿な風）を遮へいしてくれているから凶作が少ないなどの恩恵を感じ、そうした思いが鳥海山への信仰を育ててきたのであろう。

鳥海山大物忌神社では、様々な祭事が催されている(祭事暦をご参照)。山形県の重要無形文化財に指定されている「花笠舞」が舞われる例大祭など、是非、お出かけ願えれば幸いである。

### ■ 伊藤 眞垣 (いとう・まがき)

出羽國一之宮 鳥海山大物忌神社 宮司  
1943年、飽海郡平田町（現在の酒田市）生まれ。  
酒田市内私立高校教諭、兼ねて酒田市小牧鎮座白山比咩神社宮司を経て、1991年より現職。  
〒999-8521 山形県飽海郡遊佐町吹浦字布倉1番地  
TEL 0234-77-2301・FAX 0234-77-3424